

キンボールの運動強度について

○大橋信行〔東京経営短期大学〕, 佐久間康〔東京経営短期大学〕, 浜野学〔芝浦工業大学〕, 黒川道子〔国際武道大学〕, 黒川貞生〔明治学院大学〕

【目的】キンボールは、1986年にカナダで考案されたスポーツである。現在は、世界で3000万人以上の人々が楽しむ競技に発展したが、その競技特性はあまり研究されていない。そこで、今回、腰部に装着することができる身体活動量計を用いて、キンボール競技中の運動強度や運動量を測定し、キンボール競技の基礎データを作成することを目的とし実験を行った。【対象と方法】対象は、大学のキンボールサークルに所属する男子大学生12名。試合時間は、国内の大会などで実施されることが多い7分ハーフ（ハーフタイムは2分）に設定をした。測定項目は、身体組成、身体特徴、運動強度、活動量、心拍数であった。【結果および考察】7分ハーフの試合中の運動強度は、約5METsであった。歩数の平均は、前半93.9±19.8歩/分、後半86.3±22.7歩/分であり、1試合を通しての総歩数は、1263.6±81.4歩であった。これらの結果をサッカー選手と比較すると、運動強度は約50%、歩数は約60%程度であり、キンボールは、サッカーほど激しい運動ではなく身体接触もないため、比較的容易に実施できるスポーツであることがわかった。

複数大学による野外実習に関する意識調査 ～合同開催に向けて～

○佐久間康〔東京経営短期大学〕, 大橋信行〔東京経営短期大学〕,
田代浩二〔NPO法人体験学習研究会〕, 内田 英二〔大正大学〕

【研究の目的】1996年7月の「青少年の野外教育の振興に関する調査研究協力者会議」による「青少年の野外教育の充実について」の報告では、「生きる力」が求められ、青少年の生活体験や自然体験の充実の重要性や機会の提供等が述べられている。しかしながら、小規模の大学において、野外活動の実施にあたっては参加人数の不足や指導者・運営費の確保等により実施困難な場合が少なくない。そこで、そういった小規模大学の野外教育実施のための可能性について検討することを前提とし、合同での実施による参加学生の意識調査を行い、合同開催に向けての教育的効果に対する基礎的データを得ることを目的とした。【対象と方法】本研究では、平成21年8月27日（木）から30日（日）の合同キャンプに参加した3大学の学生16名（男子11名、女子5名）を対象とし、キャンプ最終日にアンケート調査（無記名）を実施した。【結果および考察】宿泊型キャンプの経験が初めてという学生が半数を占めた。アンケート結果から、野外教育における教育的効果の有用性に加え、合同での実施による好意的意見も多く確認された。